



report 21 2014年5月14日更新

宝塚はちみつ をレポートしました

美しい里山に育まれた
花の香りがいっぱいの天然蜂蜜が
第5期セレクションを受賞

宝塚の美しい自然の中で養蜂を営み、自家生産の純粋な天然蜂蜜だけを提供する“宝塚はちみつ”。加工は一切せず、採れたままの純粋な蜂蜜だけを瓶詰めした5種類の蜂蜜が、このたび第5期「食の3重丸セレクション」を受賞しました。ミツバチや自然を愛し、本物の天然蜂蜜を届けたいという、“宝塚はちみつ”の創業者であり養蜂家の明利忠昭さんにお話を伺いました。



宝塚はちみつ 明利忠昭さん

宝塚はちみつ 概要

住所：兵庫県宝塚市長尾町11-5-401

TEL：0797-51-7878

URL：<http://www.takarazuka-hatimitu.com>

第5期受賞製品

- ・ 春一番
- ・ メイフラワー
- ・ アカシア系百花蜜
- ・ 百花蜜(※)
- ・ 栗系百花蜜

» 製品について詳しくはこちら

幼い頃の原風景を再現

“宝塚はちみつ”創業の起源は、忠昭さんの子ども時代の思い出に根ざしています。「5歳の頃、父が趣味でミツバチを飼うようになり、日曜日になると家族みんなでミツバチの世話をしました。教師だった父や姉の教え子たちも集まって来て、母が蜂蜜を振る舞っていました。家族全員が若くて元気だった頃、そこにはいつもミツバチがいました。しかし私が小学2年の時に父が亡くなり、ミツバチも姿を消してしまいました」と忠昭さん。

その後、忠昭さんが大人になり都会の中で仕事をするうち、田舎を懐かしく思い出すように。「緑の中を渡ってくる風、雑木林の中、青い空に吸い込まれるように飛んでいく蜂たち、家族の笑い声……あの風を感じ、陽の光を浴びながら緑の中で暮らしたい……そこには、あのミツバチたちが飛んでいるはず」。いつしか、忠昭さんはそんな夢を描くようになりました。

そして仕事を辞めてミツバチを飼い始めたのです。

忠昭さんは「一匹の働き蜂が一生の間に集める蜂蜜は、わずかティースプーン1杯分です。そんな大切な蜜を私たちがいただいています。私共も精一杯心を込めてお世話をさせてもらっています。この豊かな自然の恵みを多くの方に味わっていただきたいと願いつつ、私は今、感謝と喜びに満たされてミツバチと共に暮らしています」と語ってくれました。

平成25年には、同社の蜂蜜は宝塚市が選定する宝塚ブランド「モノ・コトバ・宝塚」に選定され、宝塚ならではの価値ある資源として地元からも愛されています。



本物が醸し出す、濃厚な味わい

第5期セレクションを受賞したのは5種類の蜂蜜。同じ蜂蜜でも、原料になる花の種類によって味も香りもさまざまで、「春一番」は、早春の里山を明るいピンクで染める山桜の蜜と、早春の花々とのハーモニーが醸し出す魅惑的な味。「メイフラワー」はレンゲや山藤など、5月の野山の香りをまとったフルーティーな味と香りに満ち、甘い果物のようにだと評判です。「アカシア系百花蜜」は蜂蜜の女王とされるアカシア蜜が中心。癖がなく爽やかな甘さで、幅広い年齢層に好まれています。「百花蜜」(*)は、ソゴゴを主体とした香り高い花蜜が混じり合い、コクのある温かな風味です。そのままパンに塗ったり紅茶に入れたりして楽しめます。「栗系百花蜜」は、栗を中心にした季節の花々の蜜が入っています。鉄分をはじめとするミネラルが豊富に含まれ、健康を気遣う方に人気です。



最後に、蜂蜜へのこだわりについて伺いました。「ミツバチが採取した蜜をそのまま搾った、完全な天然の生蜂蜜です。加熱も行いませんので、ミネラルやビタミンが損なわれることなく、蜂蜜本来の栄養がたっぷり詰まっています。“宝塚はちみつ”の養蜂場で採れたものだけを扱っていますので、純粋な兵庫県産です。自然の恵みそのままの蜂蜜を、多くの方に味わっていただきたいと願っています」

※「百花蜜」は2014年6月より「フローラ宝塚」に製品名が変更となります。